

第191回 中小企業の景気動向調査

調査時点	2022年2月下旬～3月上旬
調査対象期間	2022年1月～3月実績 2022年4月～6月見通し
調査対象企業	当金庫お取引先 1,722社(大阪府内ならびに尼崎市)
回答企業数	609社
回答率	35.3%
調査方法	調査票郵送により回収
分析方法	DI(Diffusion Index)を中心に分析 DIとは、売上、収益、価格、数量について、「増加」(上昇)と回答した企業割合から「減少」(低下)と答えた企業割合を差し引いた値 〔例:売上DIの場合〕 売上が「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いて求めます。

売上が「増加」した企業 45%	「変わらず」 20%	売上が「減少」した企業 35%
--------------------	---------------	--------------------

45% - 35% = 10 ← 売上DI

アンケート回答企業の内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4	36	27	31	8	26	21	1	34	184	30.2%	30.2%
5～10	47	13	9	6	36	12	7	11	141	23.2%	53.4%
11～20	67	13	4	2	23	8	9	2	128	21.0%	74.4%
21～30	20	7	0	2	5	4	5	2	45	7.4%	81.8%
31～50	22	6	2	0	3	9	4	0	46	7.6%	89.3%
51～100	13	4	3	0	4	9	2	4	39	6.4%	95.7%
101～	9	4	0	0	1	6	3	0	23	3.8%	99.5%
無回答	1	0	0	0	0	0	1	1	3	0.5%	100.0%
計	215	74	49	18	98	69	32	54	609	100.0%	
構成比	35.3%	12.2%	8.0%	3.0%	16.1%	11.3%	5.3%	8.9%	100.0%		



(製造業の内訳)

食料品	繊維	木材	家具・建具	パルプ・紙	印刷	化学
4.8%	8.3%	0.9%	1.3%	1.7%	9.2%	6.1%
ゴム・革	鉄鋼	建材	非鉄金属	金属製品	電子部品	その他
3.1%	10.9%	0.0%	5.2%	31.5%	3.5%	13.5%

売上D Iは-19.1（前回比-10.4ポイント）、収益D Iは-29.4（前回比-12.5ポイント）と大幅に悪化しました。前回調査の1-3月期の見通しを、売上D Iは4.2ポイント、収益D Iは6.9ポイント下回りました。売上D I・収益D Iともに全業種でマイナスとなり、全業種横断的に苦戦の色が滲んでいます。卸売業の売上D Iが前回から-20.3ポイント、収益D Iが-29.7ポイントと大きく崩れており、商品や原材料の調達難が現実化し、サプライチェーンが機能不全に陥っているようです。仕入・調達が困難化に直面する中小企業から、「海外で買い負けている」「コンテナがない」といった声が多数聞かれ、早期の安定化が望まれます。その物流を担う運輸業では、収益D Iが前回比-34.1ポイント悪化しており、原油・ガソリン価格の高騰により収益が圧迫された結果となり、事業運営が不安定化するなど事態は深刻です。

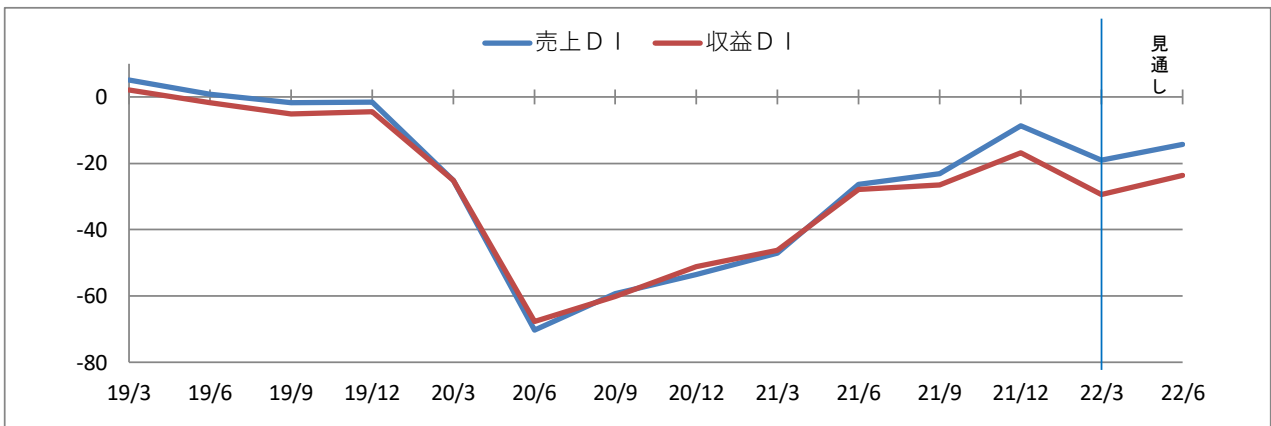
2022年4-6月期の見通しは、売上D Iが4.8ポイント、収益D Iが5.7ポイント改善すると予想、ワクチン接種の促進により企業活動や個人消費行動の活発化に期待したいところですが、混迷化する世界情勢の動向がどのように影響してくるか気になるところです。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が72.9%と前回同様、最大の問題点に浮上しました。「売上受注の停滞・減少」が62.4%と第二位に対して、「価格競争の進展」26.8%が低い割合であることから、仕入・調達が最大の課題であることが窺えます。

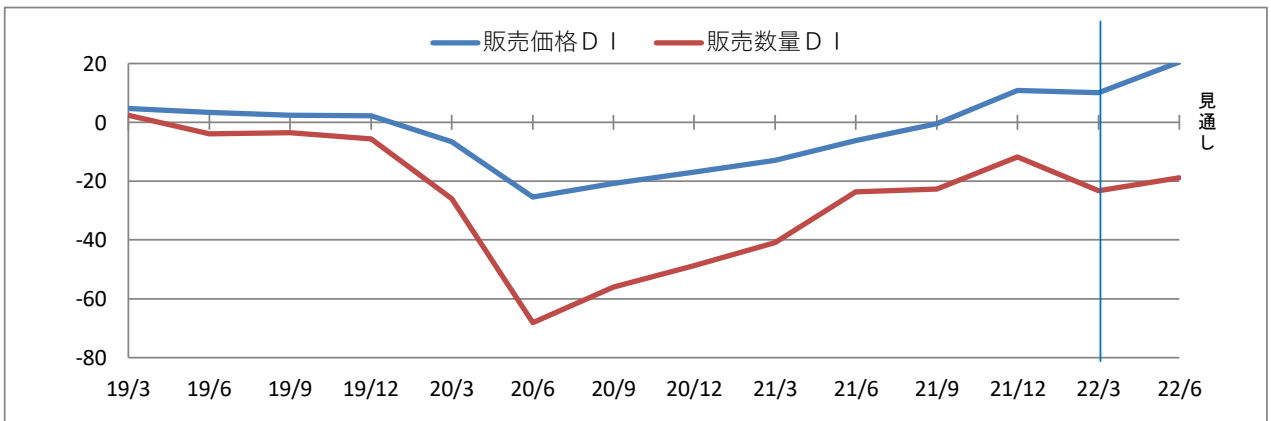
設備投資は「実施中」が12.0%（前回比△0.1ポイント）、「予定あり」が14.2%（前回比+1.7ポイント）で合計26.2%と上昇しており、事業改善の意欲が感じられます。

売上D I・収益D Iの推移

n = 609

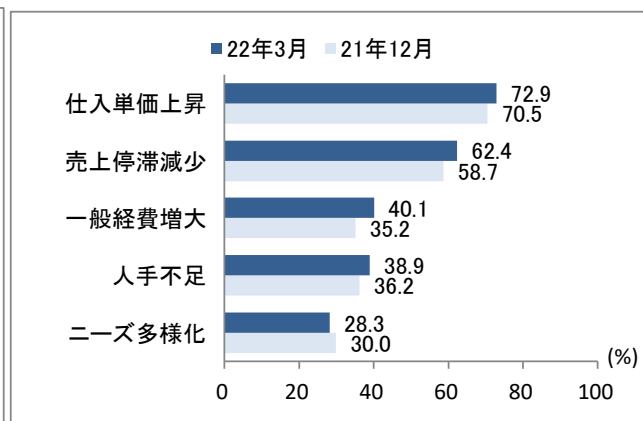
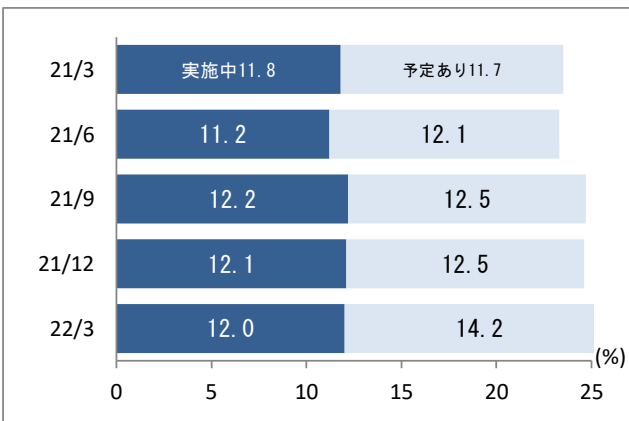


販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向

経営上の問題点



売上D Iは-4.7（前回は-9.9ポイント）、収益D Iは-21.5（前回は-14.5ポイント）となり、前回プラス圏に回復した売上D Iがマイナス圏に転落しています。前回調査時の1-3月の見通しと比べ、売上D Iは1.2ポイント、収益D Iは7.1ポイント下回り、予想を上回る下落幅となりました。

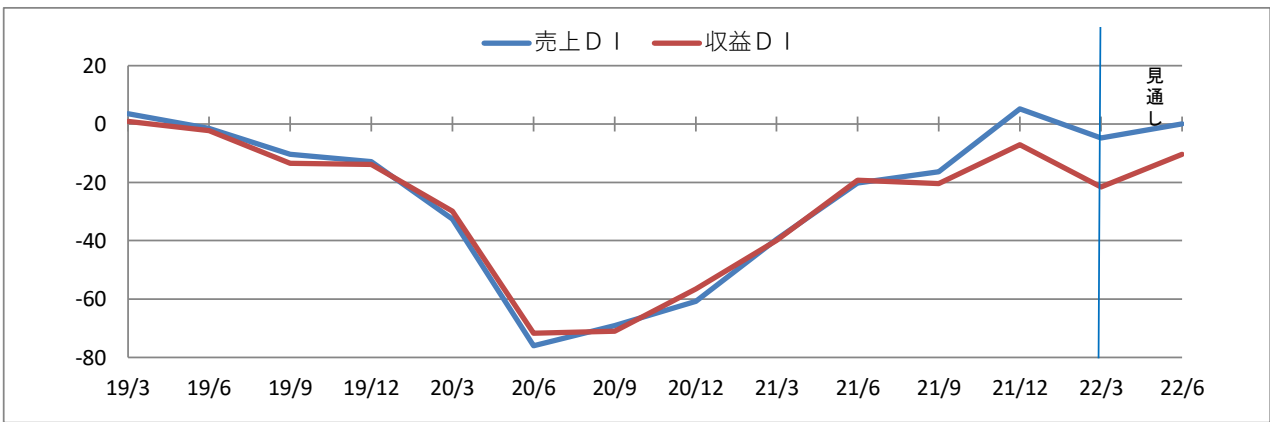
2022年4-6年月期は、売上D Iが4.7ポイント、収益D Iが11.1ポイント改善すると予想していますが、原油価格上昇を懸念する声は多く、先行きの不透明感は拭えません。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が87.9%と最も高く「原材料等の価格上昇が何度もあり先が見通せない」「部品が調達できない」といった声をあげる企業も見られ、「人手不足」35.8%であることから深刻な状況にあるといえます。

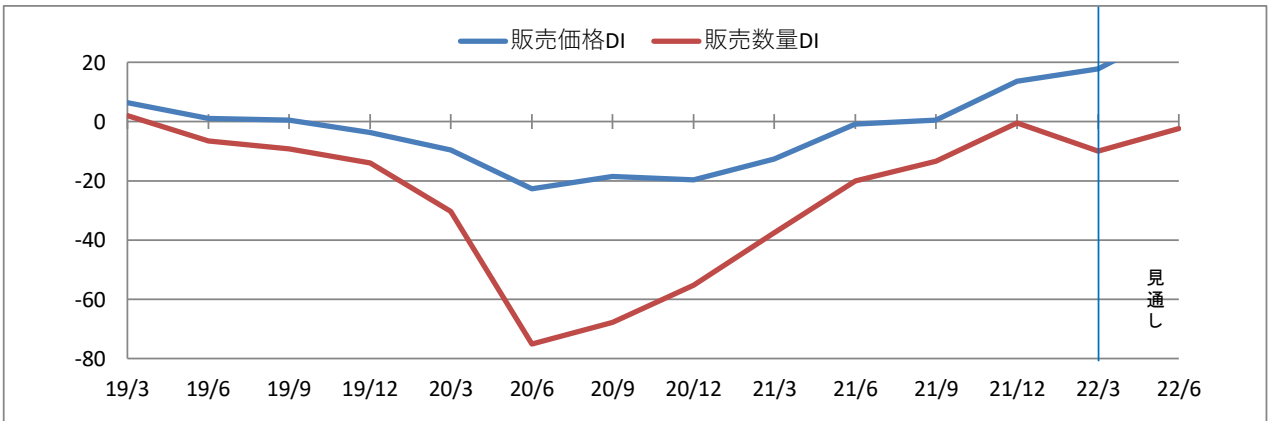
設備投資は「実施中」が15.2%（前回は-0.3ポイント）、「予定あり」が17.5%（前回は+4.7ポイント）で合計32.7%と投資意欲は維持されています。事業再構築補助金など補助金を活用した設備投資が企業の意欲を引き出しており、高精度の機器を導入することで、より精密な加工が必要な医療用機器製造分野に進出した企業もあります。

売上D I・収益D Iの推移

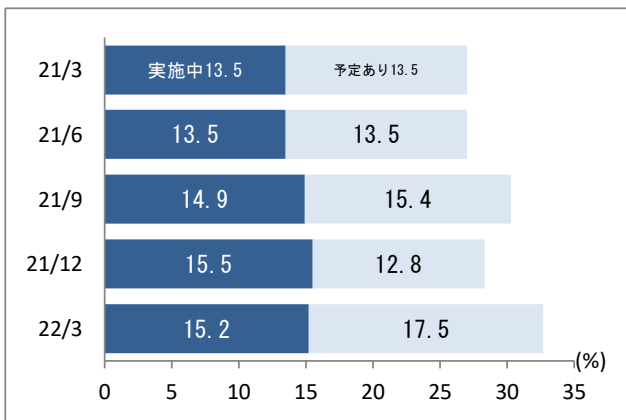
n = 215



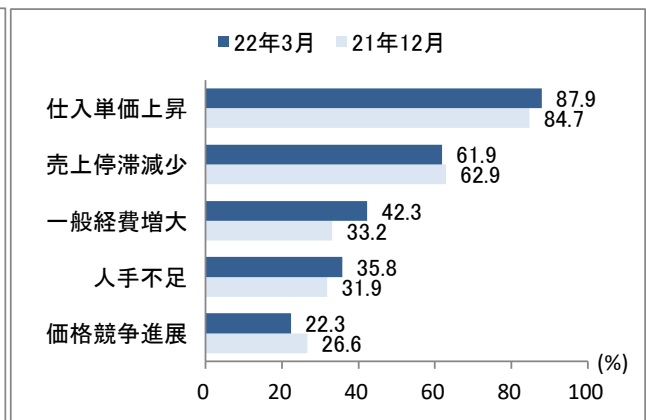
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



卸売業

サプライチェーンを維持せよ！

売上D Iは-20.3（前回比-20.3ポイント）、収益D Iは-36.5（前回比-29.7ポイント）と急激に悪化しています。前回調査時の1-3月の見通しから売上D Iは16.9ポイント悪化し、見通しを大きく下回る結果となりました。

新型コロナ対策規制が実施されたことに加え、食肉卸売業者では「海外市場で買い負けしている」「コンテナが確保できない」といった輸入商材に対する仕入難の声も聞かれます。

2022年4-6月期は、売上D Iが4.1ポイント、収益D Iが4.0ポイント改善する予想ですがマイナス圏での推移となり、本格的な景況感回復には距離を感じます。

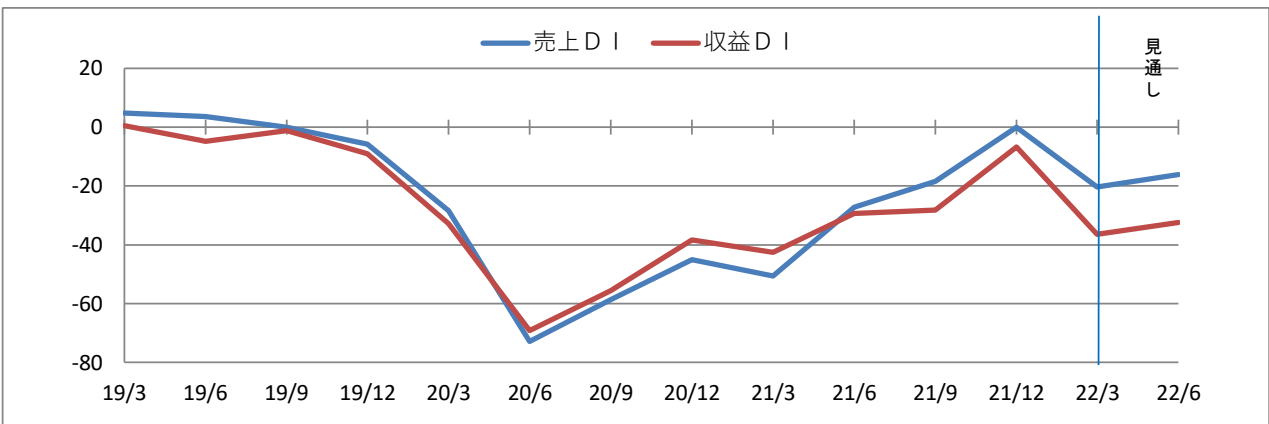
経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が79.5%と前回に続き最大となり、「売上受注の停滞減少」76.7%と続き、仕入価格上昇と売上確保の両方が大きな課題となっています。

「コロナの影響で物が売れない」といった声や、観光やイベントなどの再開をきっかけに好転することを期待する企業も見られました。

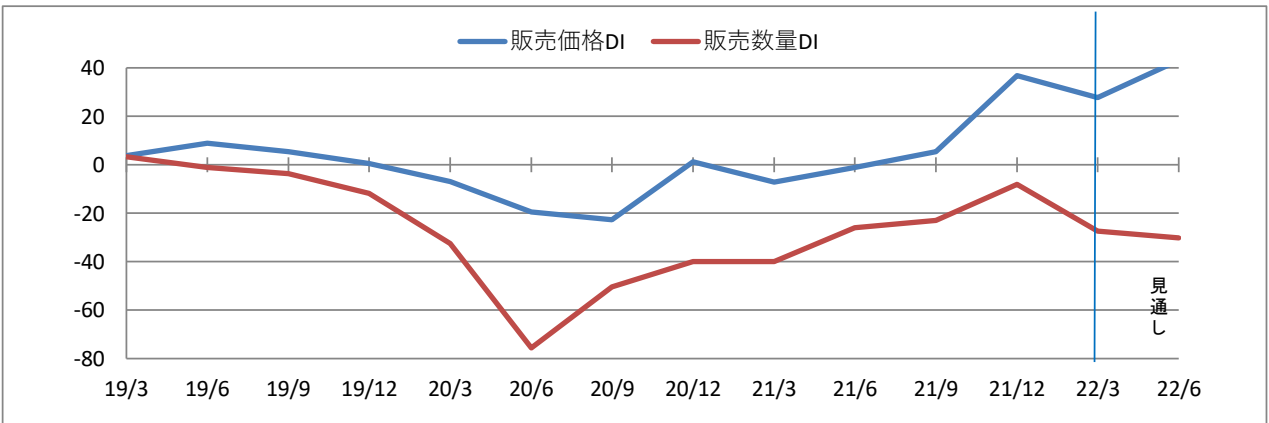
設備投資は「実施中」が8.5%（前回比-0.9ポイント）、「予定あり」が7.0%（前回比-0.2ポイント）で合計15.5%となりました。

売上D I・収益D Iの推移

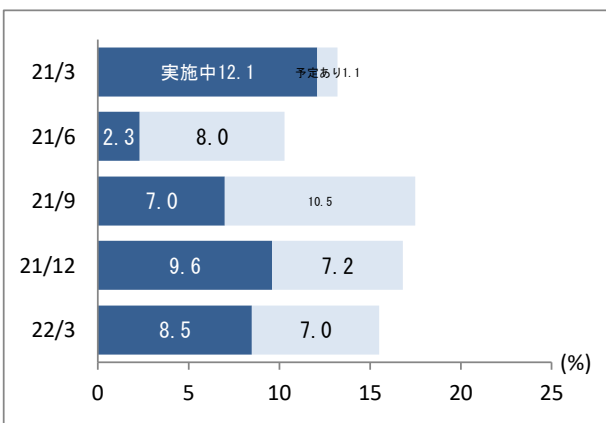
n = 74



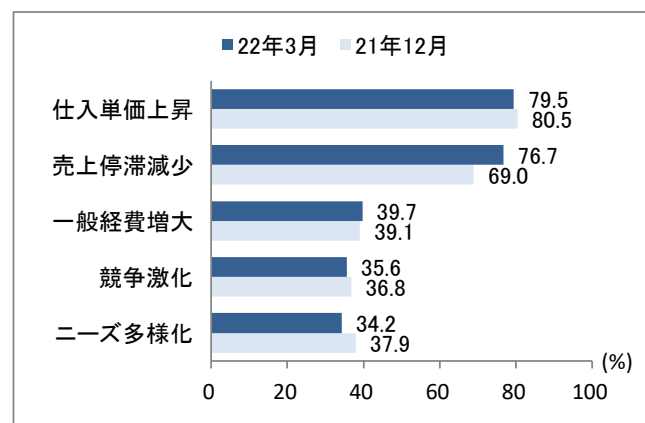
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



小売業

巣籠り消費に集中！？苦境が続く！

売上D Iは-39.5（前回比-8.2ポイント）、収益D Iは-41.3（前回比-11.9ポイント）と大幅に悪化、前回調査時の1-3月の見通しから売上D Iは4.2ポイント、収益D Iは4.1ポイント下回っています。長期化しているコロナ対応を通じて拡大した巣籠り消費を取り込めない企業にとっては苦しい状況が続いているようです。

2022年4-6月期は、売上D Iが11.7ポイント、収益D Iが10.3ポイント改善すると予想するものの、D Iはマイナス圏内にあり依然厳しい状況に変わりはないと見られます。

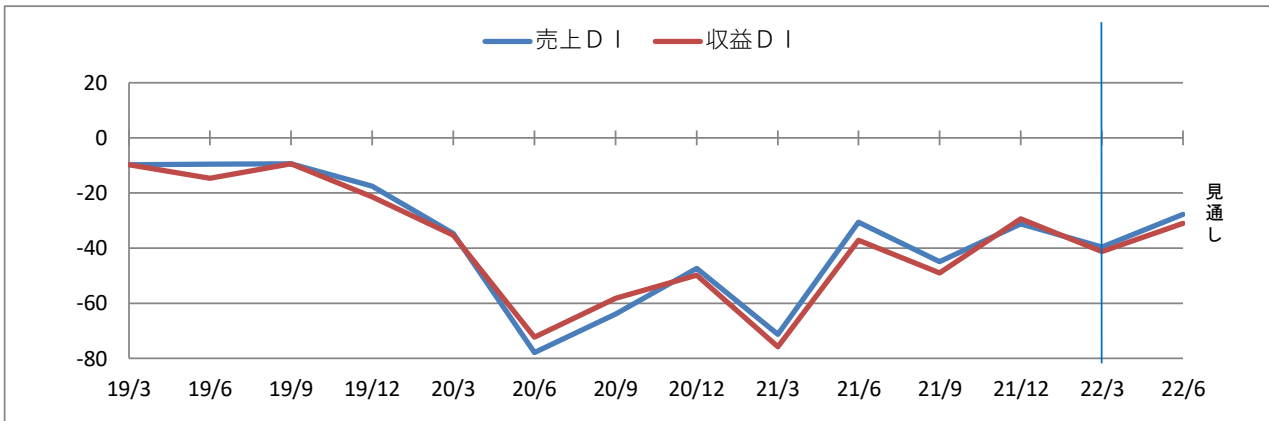
経営上の問題点は、「売上受注の停滞減少」が67.3%となり、「仕入単価の上昇」57.1%と続いたことから、仕入コストが上昇する中、個人消費を取り込むことができない板挟み状況にあります。

設備投資は「実施中」が4.3%（前回比-1.7ポイント）、「予定あり」が14.9%（前回比+6.9ポイント）で合計19.2%となりました。内容は、「事務所・店舗、機械等の保守・更新」が中心ですが、「機械等の新設・増設」25.0%に踏み切る積極的な企業も見られます。

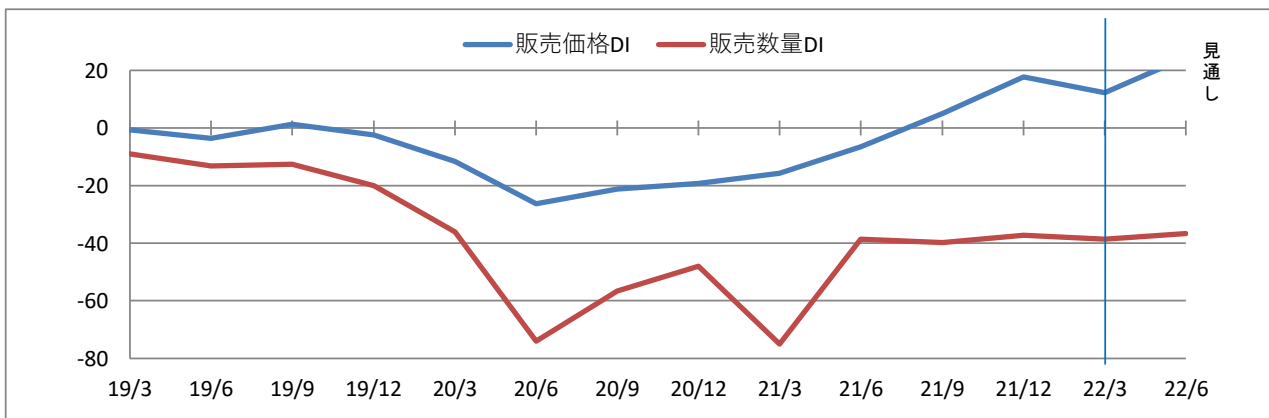
異業種が、テイクアウトから揚げ店へ進出するなど補助金を活用し、食品小売業へ進出する事例も見られます。

売上D I・収益D Iの推移

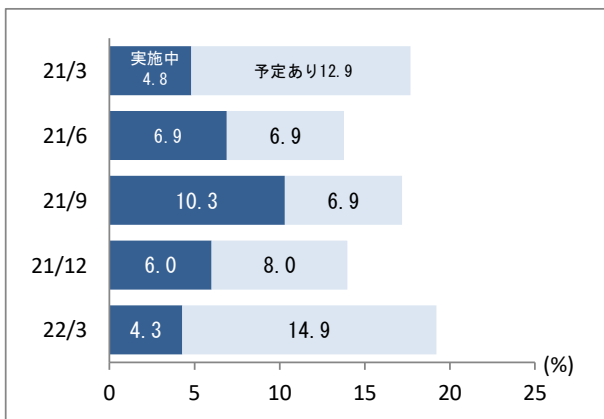
n = 49



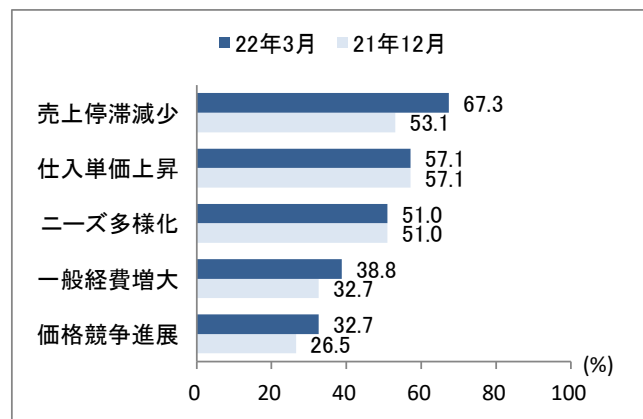
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



売上D Iは-66.7（前回比-48.1ポイント）、収益D Iは-66.6（前回比-44.3ポイント）とも大幅に悪化し、前回調査時の1-3月の見通しから売上D Iは33.3ポイント、収益D Iは51.7ポイント下回っています。蔓延防止措置の再発動、解除により人流は大きく変動したことが景況感悪化に表れています。

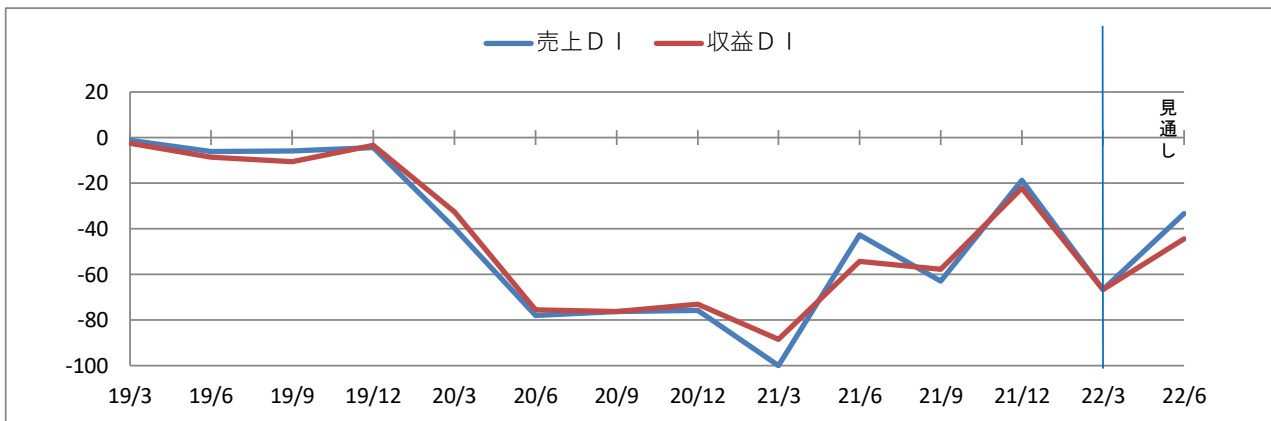
2022年4-6月期は、売上D Iが33.4ポイント、収益D Iが22.2ポイント上昇すると予想しています。蔓延防止措置が解除され、積極的に顧客を呼び込むことができる環境が整ったことで、街に活気戻ることへの期待が高まっています。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」の83.3%が最大の課題で、「売上受注の停滞減少」が66.7%、「人手不足」が66.7%と本格的に事業を再開するにあたり価格設定やアルバイトの確保なども課題となっているようです。

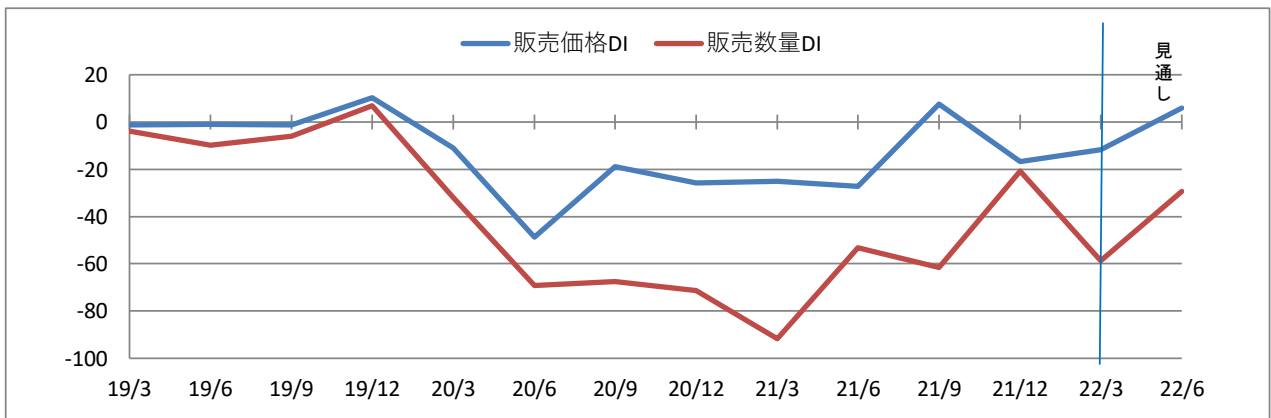
設備投資は「実施中」が5.9%（前回比-17.2ポイント）、「予定あり」が5.9%（前回比-13.3ポイント）で合計11.8%と低調ですが、何よりも事業を本格稼働させて売上を確保したいというのが経営者の本音ではないでしょうか。

売上D I・収益D Iの推移

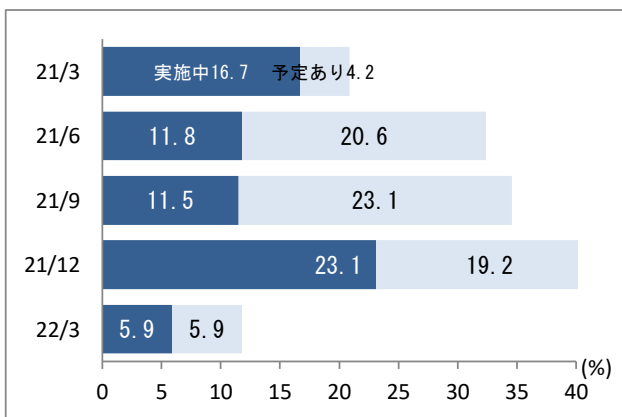
n = 18



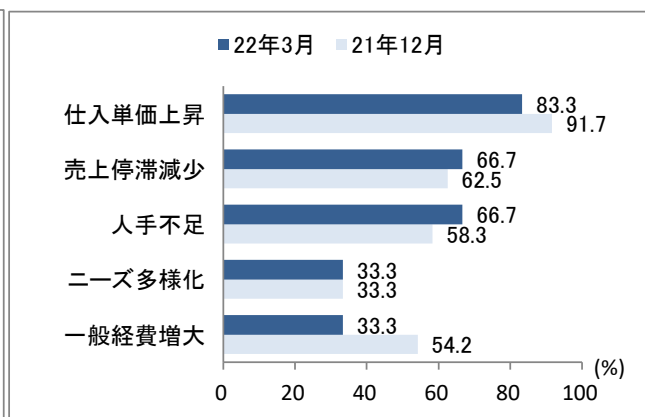
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



売上D I は-22.5（前回比-4.7ポイント）、収益D I は-23.5（前回比-1.7ポイント）と悪化し、前回調査時の1-3月の見通しから売上D I は3.8ポイント、収益D I は3.2ポイント下回りました。木材をはじめ住宅設備や建築資材といった必需品が高騰し品不足が続いているため需要はあるが仕事が進まないといった声も聞かれます。

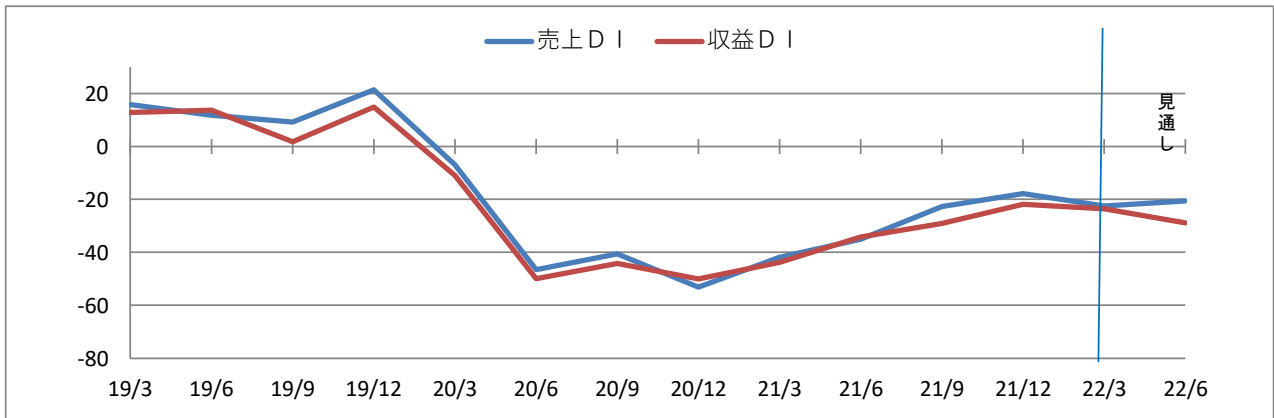
2022年4-6月期は、売上D I が2.0ポイント上昇し、収益D I が-5.4ポイント下落すると予想しています。木材をはじめ様々な建築資材が上昇基調にあり、多くの建設企業で収益の確保が課題となる上、中にはガス給湯器が入荷できず施工が中断する事態に発展した企業もあり、資材調達難の影響が現実のものとなっています。

経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が77.6%、「人手不足」が65.3%、「売上受注の停滞減少」62.2%と売上が伸び悩む中、コスト増加、人員不足と深刻さが増えています。

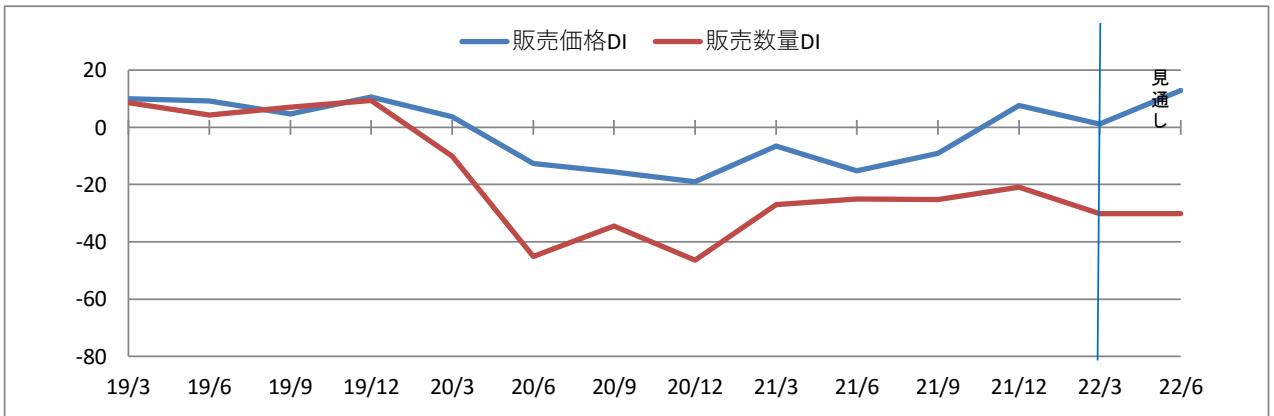
設備投資は「実施中」が9.4%（前回比+4.2ポイント）、「予定あり」が7.3%（前回比-5.2ポイント）で合計16.7%となりました。内容は「車両」が56.3%、資金調達方法は「全て自己資金」が37.4%、「リースを利用」37.5%となっています。

売上D I ・収益D I の推移

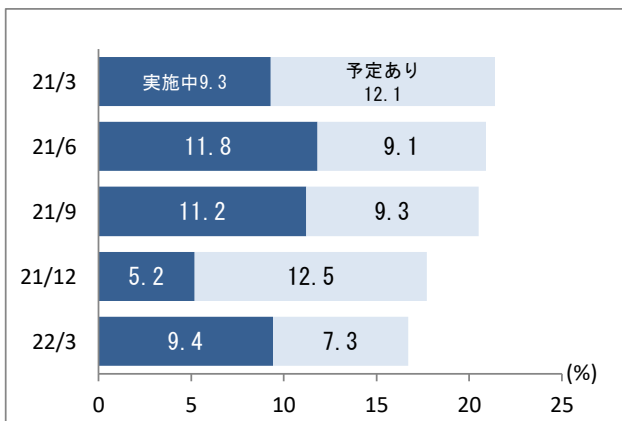
n = 98



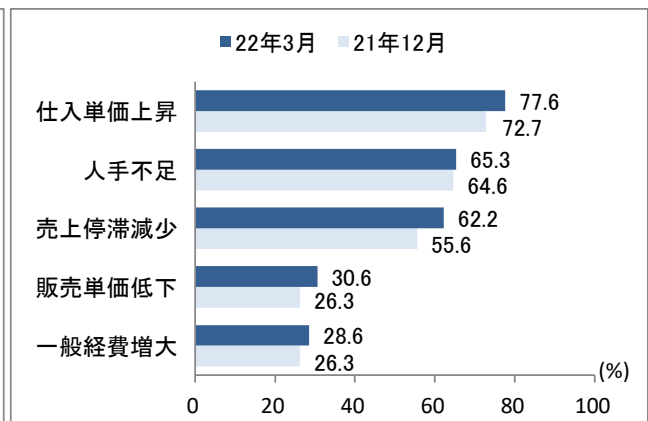
販売価格D I ・販売数量D I の推移



設備投資動向



経営上の問題点



売上D Iは-36.7（前回比-9.0ポイント）、収益D Iは-39.4（前回比-3.6ポイント）となり、持ち直しつつあった景況感は悪化へ方向転換した結果となりました。

前回調査時の1-3月の見通しを売上D Iは2.0ポイント下回る一方、収益D Iは5.4ポイント上回りました。

蔓延防止措置による人流抑制や感染症対策により対面でサービスを提供する企業は、人員や店舗を維持しながらの売上確保に苦心する状況が続いてきました。

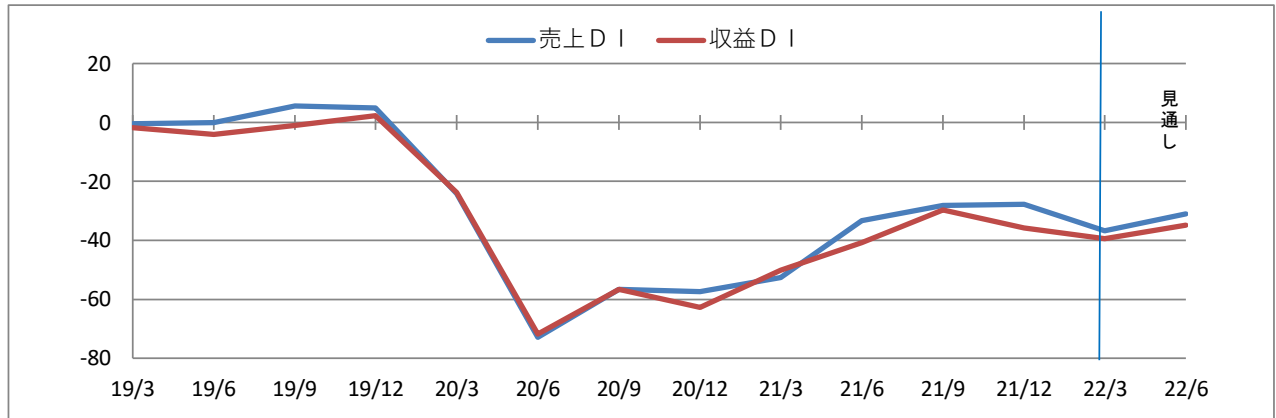
2022年4-6月期は、売上D Iが5.7ポイント、収益D Iが4.5ポイント改善すると予想しており、蔓延防止措置解除による人流活発化、個人消費増大への期待が高まっている様子が窺えます。

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が60.6%、「人手不足」が50.0%と続き、先行きの消費拡大を睨み、売上を増加させるだけの人員確保を意識した回答が目立ち、事業を本格稼働させる時期を計画しているようです。

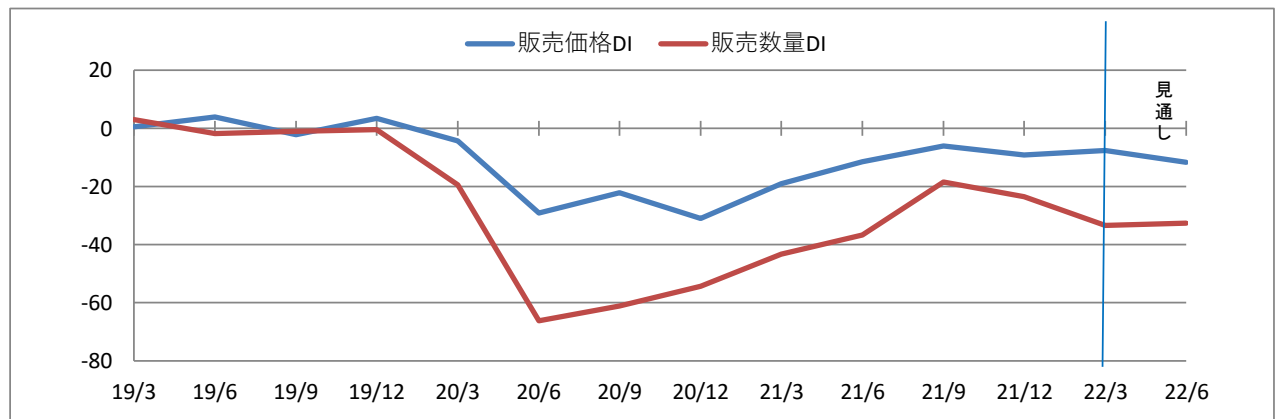
設備投資は「実施中」が16.4%、「予定あり」が17.9%で合計34.3%となり、設備投資は活発です。内容は、「機械等の新設・増設」が52.4%、資金調達方法は「全て自己資金」が42.9%となりました。美容室では、ヘアケアに加えてネイリストを増員し、ネイルスペースを設置するなどサービスの幅を広げる動きも見られます。

売上D I・収益D Iの推移

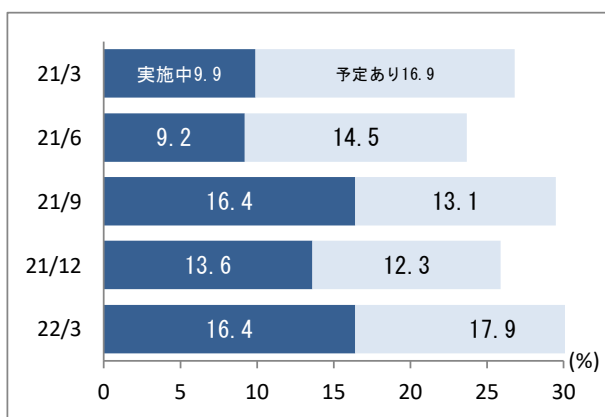
n = 69



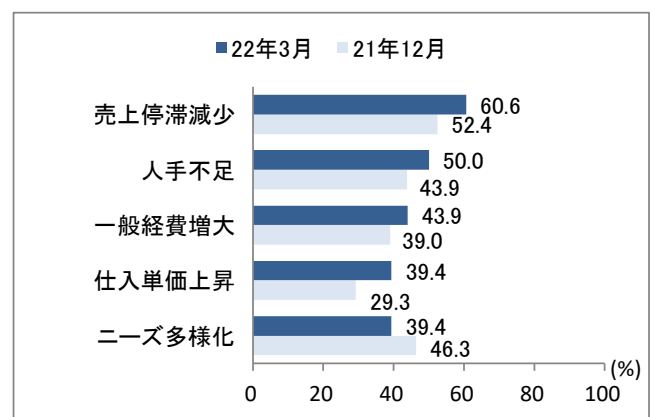
販売価格D I・販売数量D Iの推移



設備投資動向



経営上の問題点



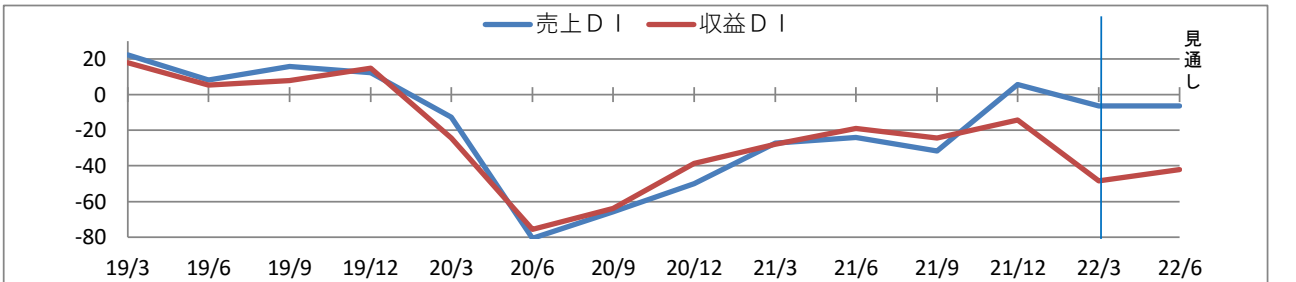
運輸業

原油・ガソリンどこまで上昇！？

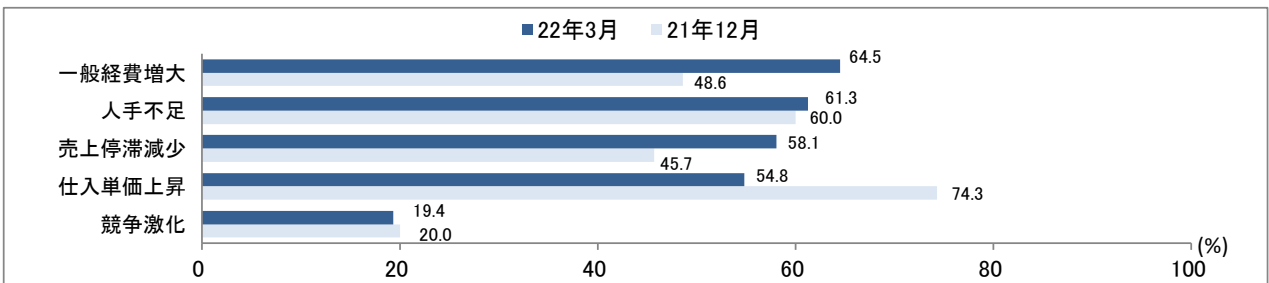
売上D Iは-6.3（前回比-12.1ポイント）、収益D Iは-48.3（前回比-34.1ポイント）となり、原油価格が急騰してきた影響が如実に表れた結果となりました。前回調査時の1-3月の見通しから売上D Iは12.0ポイント、収益D Iは27.7ポイント下回り、急激に上昇を続ける原油・ガソリン価格が業況を大きく押し下げた結果となりました。2022年4-6月期は、売上D Iが±0.0ポイント、収益D Iが6.3ポイント上昇すると予想しているものの、収益はマイナス圏で推移、厳しい環境が続くことには変わりなさそうです。

経営上の問題点は、「一般経費率の増大」が64.5%と、長らく最大の課題であった「人手不足」61.3%を上回り、原油高騰に対する危機意識が高まっていることが如実に表れました。

売上D I・収益D Iの推移



経営上の問題点



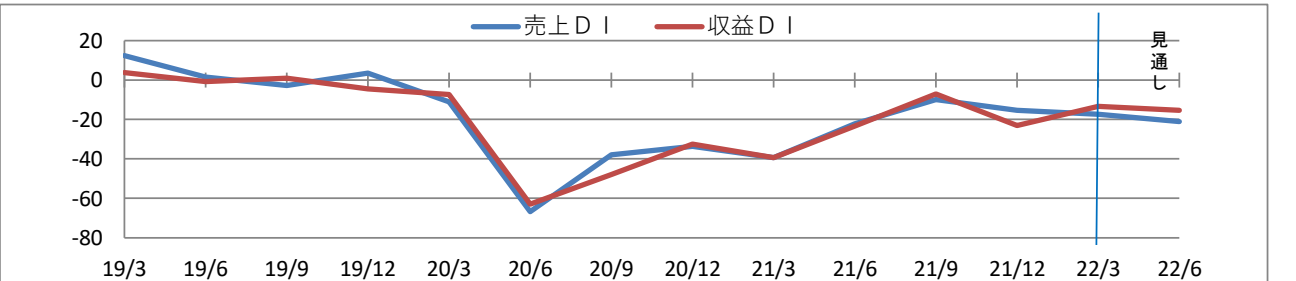
(中小企業診断士：萩原、福井)

不動産業

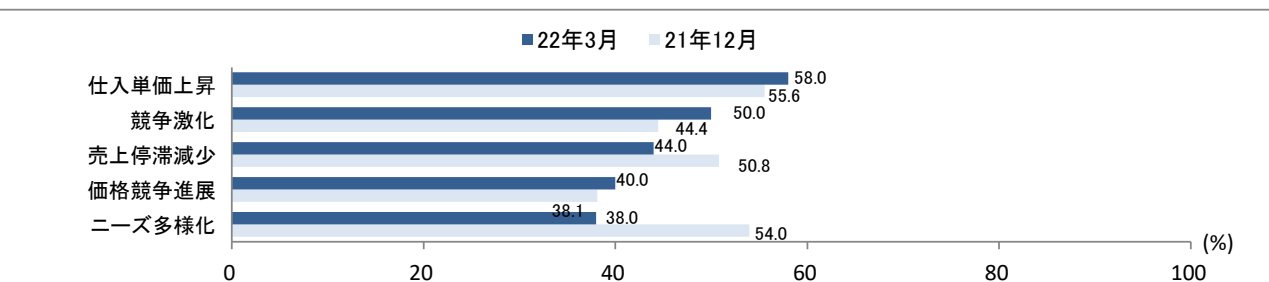
需要も価格も高止まり！

売上D Iは-17.3（前回比-1.9ポイント）と悪化、収益D Iは-13.4（前回比+9.7ポイント）と改善し、前回調査時の1-3月の見通しから売上D Iは1.9ポイント下回り、収益D Iは5.0ポイント上回りました。収益不動産、戸建住宅、マンションともに建築費上昇により高価格が進む一方、販売先の購買力には上限があり価格設定には繊細さが求められます。経営上の問題点は、「仕入単価上昇」が58.0%と「競争の激化」が50.0%の回答が上位に位置、仕入単価だけでなく住宅設備なども上昇しており、より一層の工夫が求められる状況にあるようです。

売上D I・収益D Iの推移



経営上の問題点

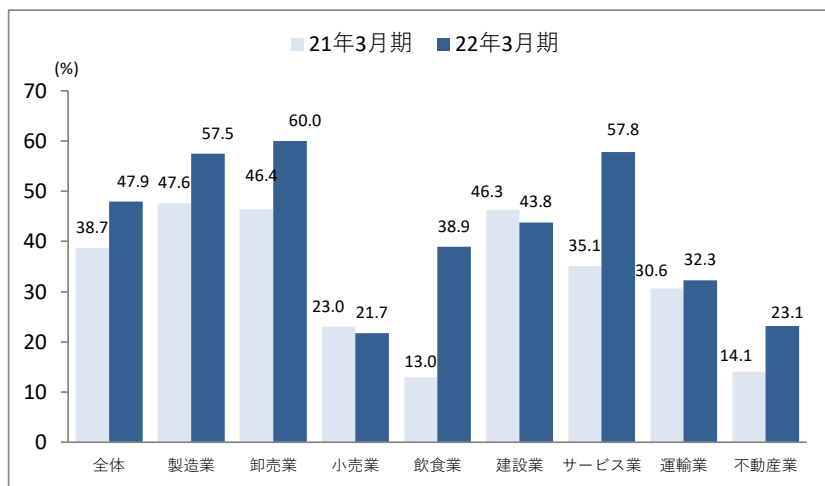


賃上げについて

賃上げ増加 定期昇給額増加

賃上げ実施予定企業の割合（業種別）

回答企業数：585社



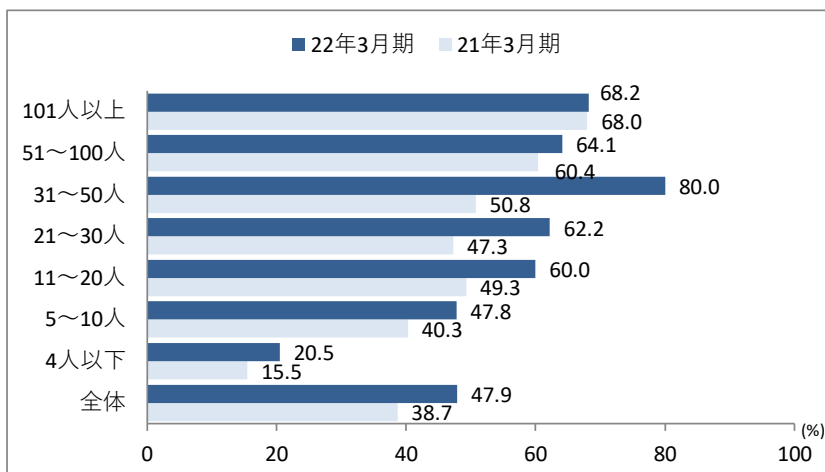
「実施予定」が47.9%、「実施しない」が52.1%となり、「実施予定」は昨年と比べて9.2ポイント上昇しました。

上昇した要因として、人員確保が恒常的な課題となる中、賃上げによる待遇改善に取り組まざるを得ないという事情にとどまらず、各企業ごとに多様な事情があるようです。

働き方改革、新型コロナなど企業と従業員を取り巻く環境も変化しており、雇用主である中小企業経営者の悩みどころといえます。

賃上げ実施予定企業の割合（従業員数別）

回答企業数：585社



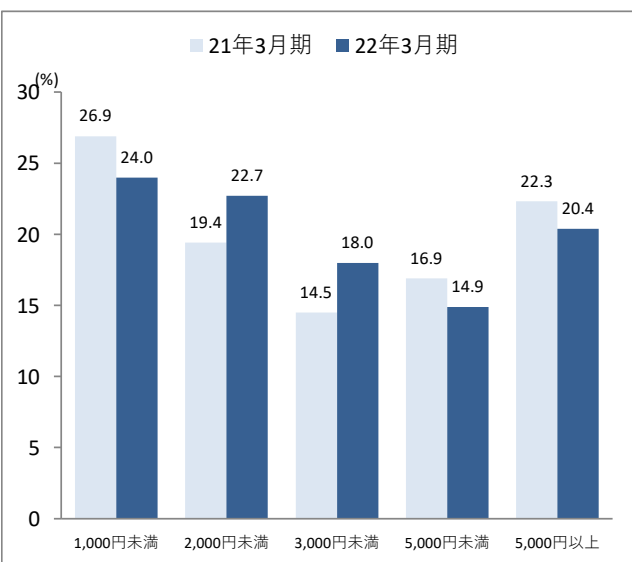
従業員数別では、親族経営の色合いが強い従業員4人以下が20.5%と低い割合となり、従業員5人超の企業で全体の47.9%を0.1ポイント下回った以外は、平均以上の賃上げ実施率となりました。

従業員31～50人が80.0%と前期比で+29.2ポイントも増加しており、賃上げに踏み切れなかった企業の意識に変化が見られました。

ベースアップ、定期昇給ともに小幅増額が目立っており、景気の見通しが不透明なこともあり、慎重に実施していると思われます。

ベースアップ予定額

有効回答数：255社



定期昇給予定額

有効回答数：275社

